

# 長崎ほしくだより

No. 216  
2012.9

発行人 谷川和啓  
編集人 古場むつ美  
購読料 1部 55円

発行：社団法人 長崎県保育協会 長崎市茂里町3番24号 長崎県総合福祉センター 3F TEL.095-846-8871

## 乳幼児が「育つ」って どういうこと？（前編）



(C) ヤマガチイック

玉川大学教育学部准教授  
おおまめうだ ひろとも  
**大豆生田 啓友**

★★★★ プロフィール ★★★★★

経歴 青山学院大学大学院文学研究科教育学専攻  
修士後  
青山学院幼稚園教諭  
関東学院大学准教授 等を経て現職  
専門 幼児教育学・保育学・子育て支援

社会的活動  
NPO法人びーのびーの(親子のひろば) 理事、  
日本保育学会理事、  
横浜市の各種委員会委員、幼稚園・保育所の  
理事、NHK教育テレビ「すくすく子育て」出演、等  
著書 「これでスッキリ子育ての悩み解決  
100のメッセージ」(すばる舎)  
「支えあい、育ちあいの子育て支援」(関東学  
院大学出版会)  
「よくわかる子育て支援・家族援助論」  
「保育者論」  
「保育方法 指導法」(ミネルヴァ書房)  
「幼稚園教師になるには」(ベリかん社)  
「つたえろ&つたわろ園だより」(クラスだより)  
(赤ちゃん和妈妈社)ほか多数  
その他・家族は子ども3人、妻1人、犬1匹



大人は子どもを「育てる」対象と考えがちです。でも、子どもは「育てられる」前にみずから「育とう」とする存在なのです。だって、赤ちゃんが次第に立って歩くのも、言葉をしゃべりはじめるのも、親が「立ち方」を教えたのも「話し方」を教えたのもありませんよね。自分から立ったのであり、自分からしゃべりはじめたのです。それは動物である「ヒト」が「人」になっていく本能的な発達のプロセスでもあります。でも、赤ちゃん自身が「立ちたい」「しゃべりたい」という必然性があったとも言えるでしょう。もし、赤ちゃん自身が「立ちたい」「しゃべりたい」という意思が生まれる前に、大人が一方的に歩き方を教えようとしたら、話し方を、教えようとするればきつと赤ちゃんはとても嫌がるでしょう。そして「立とう」とする意欲や「しゃべろう」とする意欲がそがれてしまうかもしれません。それは、4歳から



(写真と本文は関係ありません)



子どもが育つとは、赤ちゃんが立てるようになっていたり、しゃべれるようになっていたりするなど「自分の世界を広げていくこと」と言えます。そして、子どもがしっかりと自分の世界を広げ、育つていく上では



大人(親など)とのしつかりとした愛着関係(自分は愛されていると実感できる関係)が基盤になります。親などから自分がしっかりと愛され、受け入れられているからこそ、子どもは自身に自信が持て、安心して自分の世界を広げようとしています。赤ちゃんだって歩くことができるようになるのと、安心できるママとの愛着関係があるからこそ、ママから離れて興味のある遊具など見知らぬ世界に向かって突き進んで行けるのです。「○○ちゃんはすごいね」「よくできたね」などと自分をほめてくれ、認めてくれる大人がいることが、自信につながるのです。こうした愛されている実感「あなたなら大丈夫よ」という後ろ盾になってくれるのです。そうは言っても、現実はいまよりかかたり、できなくてめげってしまうこともあります。そんなときは、親などがしっかりと抱き抱え、「いやだったね」などと受け止めてくれるからこそ元気を取り戻し、自信をもってまた自分の世界を広げて行こうとすることができるようになります。それは、3歳以降の幼児期もまったく同じなのです。

子どもが育つとは、赤ちゃんが立てるようになっていたり、しゃべれるようになっていたりするなど「自分の世界を広げていくこと」と言えます。そして、子どもがしっかりと自分の世界を広げ、育つていく上では



子どもは子どもの群れのなかで育つと言われるように、人の存在もまた子どもが育つ上で重要な環境です。3歳以降は特にそうです。子どもは、他の子どもがやっているのを見て、自分も真似てやってみたいと思うことが多いのです。保育園で大好きな友達が

子どもは子どもの群れのなかで育つと言われるように、人の存在もまた子どもが育つ上で重要な環境です。3歳以降は特にそうです。子どもは、他の子どもがやっているのを見て、自分も真似てやってみたいと思うことが多いのです。保育園で大好きな友達が

(次号へ続く)



(写真と本文は関係ありません)



長かった梅雨がやっと明けました。それを教えてくれたのは天気予報ではなく

蝉でした。土のなかで今か今かと待ち続けていたのでしょうか、一足早く近くの山々から二音に鳴き出し賑やかに梅雨明け宣言をしてくれたのです。川の側にある私達の園は梅雨の時期だけではない、年中雨の心配がつきまといまいます。テレビや新聞等で報道される九州北部の大水害の様子は30年前の長崎大水害の様子と重なり、再びあの様な惨事が繰り返されるのでは?と不安な気持ちに駆り立てられました。▼30年前の長崎大水害のときは私達の園も少なからず被害を受けました。床上浸水1m、豪雨が園舎を襲ったのは夕方から夜、園児も職員も誰も居ないときだったのが一番の救いでした。一夜明けて園に行ってみると変わり果てた無惨な園の姿がありました。床一面川から流れ込んだ大量の汚泥で埋め尽くされ、そのなかに転倒した椅子、本棚、整頓棚、室にある全ての物が所かまわず散乱し、悪夢を見ている思いでした。茫然と立ち尽くしている私達のもとに一早く駆けつけてくれたのは園児達の保護者でした。職員と共に濡れた畳や備品、全てを室外に運び出し、床の汚泥も川からバケツリレーで水を運び、洗い流し、拭き上げ元の姿に戻してくれました。土砂災害で交通が遮断され、電気・水道も復旧するまで時間がかかり、通常の保育が再開されたのは災害後1週間経つてからでした。二度と経験したくないことですが、災害は忘れたころにやってくる言われます。(S・I)

# 長崎ほいくだより

発行：社団法人 長崎県保育協会 長崎市茂里町3番24号 長崎県総合福祉センター 3F TEL.095-846-8871

購読料 一部 55円

続きは、お買い求めいただきご購読下さい。  
お問い合わせは、保育所(園)または長崎県保育協会までお願い致します。

## 2ページ目以降の内容をご紹介します

### ■ つれづれ

園長先生等のリレー式コラムです。保育に対する思いや考えなどを文章にしています。

### ■ 保育のひろば

#### ● 地域との交流

各保育園の近隣の交流状況など画像を添えて紹介します。

#### ● ランチタイム

給食やおやつ、食育等の取り組みを情報提供致します。

#### ● 保育園めぐり

県下の保育園を地区別に順番で紹介しています。

### ■ すこやかなそだち

保育の専門家が、プロの視点で子育てに関する様々なテーマに基づいて書き下ろす連載コーナーです。

### ■ 読者のひろば

子育ての思いやエピソードなど地区別の保護者に書いていただくコーナーです。

### ■ であい

保育士に保育に対する質問を投げかけそれに答えるコーナーです。

### ■ ZOO夢イン 家族のお出かけスポット情報

編集部一押しの地元のお出かけ情報です。家族向きのお出かけに参考になります。

### ■ つぶやき

### ■ わんぱく写真館

子ども達の日頃の保育園における活発な活動の写真を掲載しています。

### ■ え?!絵本

子ども向けのおすすめ絵本です。わかりやすく解説しています。